

裁判所の総合職



寺澤 夏子

最高裁判所
事務総局デジタル推進室専門官
(H16採用)

略歴
H16 東京高等裁判所裁判所事務官(採用)
H18 東京地方裁判所裁判所書記官
H25 最高裁判所事務総局家庭係係長
R2 東京高等裁判所課長補佐
R3 現職

多様な経験

総合職は、裁判所の組織運営における企画立案の中核を担うことが期待されています。総合職として採用された私も、書記官に任官した後、最高裁の事務総局や地裁等の裁判部・事務局において、書記官としての裁判事務に加え、人事制度にかかる企画検討や新たな法律の施行準備などの多様な経験を積んできました。このようなキャリアの中で、裁判所の組織の在り方や、裁判の運用について、幅広く学び、成長の機会を与えられてきたと感じています。

デジタルな裁判所を創る

私は、今、最高裁の事務総局で、裁判所全体のデジタル化を推進する業務に携わっています。

デジタル化の検討は、「紙」や「対面」が当たり前だった裁判所の仕事を一から見直すような作業です。書記官として実際の事件処理に携わった経験や、裁判所全体の組織や裁判事務の運用の



在り方の検討に携わったこれまでの経験を生かしつつ、様々な部署の仲間や、民間から採用されたデジタルの専門家の同僚らと意見交換を重ねる日々を過ごしています。これからの裁判の在り方や、将来の職員の働き方にも影響を与える、やりがいのある仕事であると感じています。

総合職として

自分自身のキャリアを振り返ってみると、これまでも、そして今も、様々な部署でいくつもの仕事を体験する中で、また、いろいろな人とのコミュニケーションを通じて、学び、成長することができたのではないかと感じています。

キャリアの中で、広い視野や考える力を培い、それを更に業務に生かしながら成長していけるのも、総合職の魅力の一つだと思います。皆さんも、是非、総合職にチャレンジしてみてください。一緒に働ける日が来ることを楽しみにしています。



橋本 翔

最高裁判所
事務総局総務局主計課係長
(H22採用)

略歴
H22 東京高等裁判所裁判所事務官(採用)
H24 東京地方裁判所裁判所書記官
H29 東京地方裁判所人事課係長
R3 現職

幅広い視点から考え、行動し、 組織の中核として携わる

私は現在、最高裁判所で、全国の裁判所に予算を分配する仕事をしています。人件費や庁舎の管理費用、各種システムの開発費用など、組織を運営していくためには予算が必要です。予算は有限ですので、本当に必要なところにお金を届け、予算を効果的に使えるような仕組みの構築が必要であり、そのような仕組み作りの検討も、現在の私の仕事のひとつです。

私は、総合職として採用された後、地方裁判所の裁判部の書記官や人事課の係長など、裁判実務と司法行政の仕事のどちらも経験する機会を得ながら、裁判所職員としてのキャリアを積んできました。現在の仕事では、適正に予算が分配される仕組みを作るため、先入観や前例にとらわれないよう心掛け、既存のルールとの整合性や、裁判手続への影響など、様々な視点から考えながら仕事に取り組んでおり、これまでの経験が現在の仕事にも活かされていると感じています。

仕事を通じて社会に貢献できるだけでなく、裁判所全体を幅広い視点から考え、行動し、組織の中核として携わることができると感じています。



チームで乗り越え、より良い司法を 実現するための役割を担う

これまでの知識・経験からだけでは検討の難しい課題に直面する場面や、関係部署との調整が必要となる場面など、一筋縄ではいかないこともあります。

そのようなときも、一人だけで乗り越えていく必要はありません。周囲には頼りになる仲間がたくさんいます。自分自身が主役であり続ける必要はなく、チームとして乗り越えていけばいいのです。私もこれまで直面してきた様々な課題をチームで議論し、結論を出してきましたが、そのようなときには、より良い司法を実現するための重要な役割を担っていると実感でき、やりがいを感じています。

皆さんのキャリアの参考になったでしょうか。近い将来、同じチームで働けることを心待ちにしています。